

# 宮古島でみつける大切なもの

沖縄県 宮古島市



さるかの会メンバー：平成 17 年 4 月に研究会を立ち上げ 10 月に「さるかの会」に改名、平成 20 年に法人として活動を始める。



離島式：離島式を終えて宮古島の家族と。寂しさの中にも、子どもたちの満面の笑顔がそこにあった。



地域散策：近くのインギーマリンガーデンまで。雄大な海を眺めつつ、夕飯の食材の野草を摘みながらのんびり散策。

## 事例の概要

- 少子高齢化の進行、若者の働く場を求めた都市部への流出等、地域の活力低下に危機感を持った旧城辺（ぐすくべ）町住民有志により平成 17 年に「ぐすくべグリーンツーリズム研究会」として結成され、平成 18 年に農村地域の特性を活かした農業体験型の滞在観光をスタートさせた。平成 20 年度には、研究会のメンバーの出資によって合同会社を設立。地域経済を豊かにするために、地域資源を活用した観光業と農業を連動させた農家民泊事業により、都市と農村の交流の促進、地域経済活性化に寄与している。
- 活動内容は、農村地域の特性を活かした農業体験型の農家民泊事業により都会からの修学旅行生を受け入れており、農業体験、郷土料理体験、伝統文化体験、自然体験のメニューを設定し、地元農家によるおもてなしを行っている。受入実績は、平成 18 年度の 1 校 260 名であったものが平成 21 年度見込みでは 18 校 5,500 名と大幅に増加している。それにより体験費や滞在期間における地元での消費など地域経済への波及効果が生まれている。

## 評価のポイント

ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会合同会社の農家民泊事業は、住民自ら地域の活性化振興策を模索し、地域資源を活用した観光業と農業を連動させた取り組みである。この農家民泊事業は都市と農村との人的交流を促進しており、特に都会からの修学旅行生には、人情深い人々の普段のままの生活体験や農・漁業体験、郷土料理体験、自然体験等が心のやすらぎを与えている。

この活動を進める中で、迎える農家側の充実感や達成感は、事業の課題や改善点を含めた活動のあり方を考えるきっかけになり、これからの地域づくりを支える原動力となっていくと思われる。

また、島の人情に触れた若者たちが今後も地域の人と繋がり、宮古島を第2のふるさとと捉え、リピーターとなる効果も期待できることから、観光産業の将来への持続的な発展に貢献するものと考えられる。

このように、<sup>ひがしへんなき</sup>東平安崎、<sup>よしの</sup>吉野・<sup>あらぐすく</sup>新城海岸、<sup>ともり</sup>友利イムギーマリンガーデンなどの地域資源を活用した都市と農村部との人的交流の促進、地域間の相互理解の深化や地域活性化への貢献が認められる。また、地域住民が連携し、自らの地域を自らの手でつくりあげるために奮闘しており、他の地域の模範となるものと考えられる。本事例は、このような点が評価された。

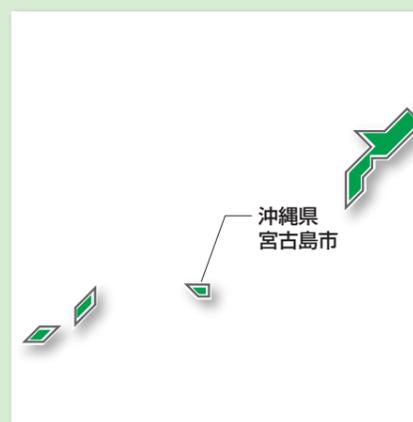


ゆしトーフ：朝食のゆしトーフづくり。昔ながらの石臼で力が入る。にがりは日の出を見ながら今朝近くの海で汲んだ海水を使用。素朴な味に感動しきりでした。



ドラゴンフルーツの植え付け：メッセージの支柱を立て、大きく実がつく頃にまた来ますと約束した子どもたち。

## 沖縄県 宮古島市 (みやこじまし)



国勢調査人口					(単位：人)	
昭和 35 年	昭和 45 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年		
69,443	58,667	54,326	54,249	53,493		
人口増減率					(単位：%)	
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	22.8	
△23.0	△8.8	△0.1	△1.4	若年者比率	14.5	

交通のご案内		団体連絡先	
飛行機 宮古空港から車で約 15 分		ぐすくべグリーン・ツーリズムさるかの会	
		〒906-0107	
		沖縄県宮古島市城辺字友利 149-18	
		TEL. 0980-77-7691	
		FAX. 0980-77-7692	
		http://www.ggt-sarukanokai.jp/	